

令和元年 第3回 学校運営協議会

日時：令和元年度 11月22日（金） 15:30～16:00

出席者：阿部力、萬谷恵三子、奥山由佳里、下城一、市川慎二、青木邦弘、河原克宣

副校長：開会に先立ちまして、本日は静岡県教育委員会指導主事氏の来校があります。

指導主事：(挨拶)

副校長：(本日の流れを確認) →会長へ

委員：(開会)

校長：前回以降、1年生ワークショップ型ガイダンス、2年生キャンパスツアー、駅伝大会を行ってきました。

委員：4年間の最終年度として学校教育目標の振り返りを行っていくため各総括教諭から報告をお願いします。

職員：【教育課程 学習指導】組織的な授業改善に取り組み、考える力やアウトプットの育成を目標にしてきた。次年度以降もアウトプットする力の育成に力を入れていきたい。

委員：改善に向けての教科会は定期的に行っていますか？

職員：定期的ではなく必要に応じて、担当者が中心に行っています。

職員：【生徒指導・支援】遅刻指導として、月5回以上で注意・指導を行い生活習慣の改善を促しているが、現状ではあまり変化がなく、遅刻の数はほぼ横ばいです。通学時の交通事故等の報告もあり、注意喚起を目的として全校集会で話す機会を設けています。アンケートでは6, 7割の生徒が挨拶をしていると答えていました。来年1月に全国交通安全協会から表彰予定です。

委員：体育の授業の様子（準備段階等）から考えると遅刻者の数が多いのではないですか。（準備等の活動は）自ら行っているのか、やらされているのか。指導を行っても同じ生徒が遅刻を繰り返しているのではないですか。

職員：段階を追って指導をしているが、なかなか指導を理解してくれない生徒もいるので、家庭の協力も必要と考えています。

委員：自ら取り組ませるための方法も考えてほしいと思います。

職員：【生徒指導・支援】部活動の協力のもと三ツ境養護との交流など行っています。その交流を通して、生徒達はコミュニケーション能力を養うことができています。防犯活動として地域の小学校での発表にも参加し、文化祭ではおもてなしの気持ちを大切に行動してくれた生徒がいた。全生徒に広がるように活動を継続していきたいと考えます。

委員：川井地区の防災活動で、生徒の活躍があった

職員：【進路指導・支援】スタディサポート（ベネッセ）を使用し学力の定着を図るが、入学時と比べて卒業時の方が学力は下がっています。現1年生は4月より9月の方が伸びているので、授業面の改善が理由とも考えられます。今後は分析をしっかりしていきたいと考えます。入試の傾向は推薦型を考える生徒が多く、一般受験する学力がないと考えています。自ら学習に取り組む姿勢が大切であり、大学合格を目標ではなく将来を見据えて予測困難な未来に対応できる学力をつけてほしいと思います。グローバル化が進む中、生徒には英検2級程度の英

<p>語力は身に着けさせ、キャリア選択の指導をしていきたいと思います。</p>
<p>委員：先輩の話を聞く機会はあるのか。年齢の近い人の話を聞くことはモチベーションを高めることになるので。</p>
<p>職員：あまりないが、1年次のワークショップ型ガイダンスで大学生から話を聞く機会がある。</p>
<p>職員：【地域等との協働】学校運営協議会の議事録等を公開し、学校内外への周知（HPなど）に努めている。『あさひだより』を月1回発行して地域に配布しています。旭高校を知ってもらう便りになっています。</p>
<p>委員：運営協議会をオープンにすることは評価できる。ビリーブは旭高校の特色ではないか。</p>
<p>職員：【学校管理 学校運営】防災意識を高めることに重点を置いています。防災は部活動の生徒を対象にした訓練も実施しています。教室のロッカーの交換、廊下のワックスなどのクリーンアップ活動も行ってきました。</p>
<p>委員：「不祥事ゼロプログラム」はどんなものなのか。どのような不祥事があったのか。</p>
<p>教頭：県から指示による研修の一環です。本校では学校全体で月1回の研修会を行い、不祥事が起こらないような環境をつくっています。</p>
<p>委員：以上で総括教諭からの報告を終わります。他の委員の方、質問等がありますか？</p>
<p>委員：(特になし)</p>

令和元年度 第2回 地域連携部会
日時：令和元年度 11月22日（金） 16：10～16：50
出席者：青木邦弘、奥山由佳里、阿部力、大内良臣、多田明恵、木本厚、安田智香
教頭：昨年度の活動報告をします。主な活動は、非行防止教室、ビリーブ、川井地区防災訓練、サニーヒルズ訪問（夏祭りへのダンス部の参加、1月の吹奏楽部）、サッカー教室、木浦との交流、PTAと地域の交流、学習サロンなどです。
職員：生徒支援グループでは、ビリーブや旭カップで地域と交流をしています。今まで旭カップは、女子バスケットボール部とサッカー部等が行っていましたが、昨年度から開催する部活動を増やす取り組みがあり、ダンス部も行うようになりました。私はテニス部の顧問もしていますが、今年はテニス部も旭カップを行う予定です。テニス部では、ビリーブで交流のある三ツ境養護と旭カップでも交流をすることにしました。それに伴い、テニス部では、PR動画やポスターを作成し、三ツ境養護学校へ送りました。
委員：三ツ境養護学校の生徒の反応はどうでしたか。
職員：まだ伺っていません。
委員：生徒発信で地域交流についてアイデアが出てきていないのか。
職員：生徒側から出てくることはないのが現状です…。
職員：生徒指導グループでは、挨拶や遅刻、バスの乗車マナー、自転車のマナー、頭髪について継続的に指導を行っています。
委員：「5分前集合！」など、キャッチフレーズがあるといいのではないのでしょうか。また、待っている人の気持ちを考えさせるなど、工夫が必要だと思います。
職員：1か月に5回以上遅刻すると遅刻指導があり、反省文を書かせたり、教員から話をしたりしてはたらきかけています。
委員：バスの乗車マナー等について、自分が他の立場だったらどのように感じるか、と考えられるように、時間はかかるかもしれませんが、継続して指導してほしいです。
委員：遅刻は3年生が一番多いですか。
教頭：2年生が一番多いです。3年生は、今までよりも増えてきてはいますが。バスで遅刻した生徒は、遅延になりますが、それで授業の時間が削られ、自分が損をしているというところまでは伝えきれていないと感じます。生徒もそこまで考えが及んでいません。
委員：私たちが高校生頃には、遅刻する生徒がいることなんて、稀でした。
委員：保護者の意識改革も必要だと思います。
教頭：3か月連続で指導になると、私のところに来ることになります。それが彼らにとってダメージに必ずしもなっているとは限らないと感じます。教室で叱られるよりは、何か変わるかもしれませんが。
職員：今月は、遅刻指導の内容を変え、もう指導されたくない、と生徒が思うように工夫しました。
教頭：その他に何かございますか。来年度に向けてヒントをいただければ、と思います。例えば、PTAと地域が集まる場を用意する、など…。
委員：地域ではパトロールを行っています。

令和元年度 第2回 教育活動活性部会

日時：令和元年 11月 22日（金） 16：10 ～ 16：50

出席者：萬谷恵三子、下城一、市川慎二、足立利恵、田中茂、丹羽智子

副校長：第2回教育活動活性部会を始めさせていただきます。今回は、今後旭高校にこうなってほしいというような今後のことについて、話を進めてまいります。

委員：この4年間、アウトプットする力を身につけることをやってきたと思いますが、これは今後必要となる力になります。本園に実習にきてくれる旭の生徒たちは、自分の考えを言える人が多く、挨拶もできる。地域において印象のいい学校であるということは、とても大事なことです。このコミュニケーション能力をベースに、地域から信頼される学校を目指して行ってほしいです。

委員：4年前と比べて、新しく取り組んでいることに成果がでているものもある。4年前にお願いしましたこととして、生徒が主体的に活動できる支援があります。あさひだよりを通して、校外でも生徒が活躍している様子がわかります。ビリーブや吹奏楽部、小学校の防犯教室のお手伝いなどを通して、何かつかめることがあるのではないかと思います。また、キャリア教育においては、すぐ上の先輩たちの話を聞く機会をもてるようにしてほしい。活躍する先輩たちから直接話を聞くことで憧れになり、いい連鎖を生み出すきっかけにもなっていくと思います。

委員：一部の生徒がボランティアなどで地域参加しているかもしれないが、旭高校の部活動なども地域に発信していける力になるとよいと思います。新学習指導要領で扱われている問いを立てること、ルーブリックの作成がすでに取り入れられていることはよい。生徒が何を目標にすればよいか明確になっている。さらに学校全体で、生徒のこういう資質、能力を身につけさせたい、というものに対してどのような取り組みができるかを決めていくことも大切。話し合い活動で自分の考えを言う、他者の考えや意見を聞く活動を取り入れるなど、軸になる活動があるとよいのではないですか。

副校長：授業内の話し合い活動は、小中学校での取り組みのおかげで、教科の別なく頻繁に行われております。ペアワークであったり、グループワークであったりしても、生徒はスムーズに机の移動も行いますし、こうした活動には抵抗なく取り組んでいると思います。

委員：私の知り合いの中学生が夏に行われた学校説明会に参加したそうなのですが、旭高校の生徒自身が話していることが印象的だったという声を聞きました。旭高校に入ればこういう力が身につくということがよくわかることだと思います。

委員：説明会を自分たちでやることで、自分たちが学校を作っているという意識が高まると思います。

委員：これが自発的な活動となっていく、いい影響を与えていくのではないのでしょうか。

委員：中学校で、リーダーシップを取れるような子は他の学校に行ってしまう。運動はできるけど自発的に活動できる生徒は多くない。生徒が自発的に活動できる仕掛けづくりをしていただきたい。そして自発的に活動する体験をさせることが大切。先生が仕掛けをつくり、生徒が

主体的に活動することで先生が少しでも楽になればと思っの提案ですが、週末生徒が外に出るとなると、やはり先生が引率されるわけで、結局先生の仕事は増えることになっているかもしれませんが。今年の文化祭では、いろんな形で生徒主体の考えが表れていた。文化祭の挨拶で「先生に怒られている時間は、先生の時間を無駄にさせているし、自分たちの時間も無駄にしている。」という話があったそうですが、そうした考えが出てくるのはよいことです。

副校長：こちらの二人の職員は、教務と進路グループからきていますが、担任としてのお話があればお願いします。

職員：クラスはわたあめをやりまして、生徒が主体的に取り組み、こちらは会計、お金の管理をするくらいでした。また、本校では旭カップという部活動主体の地域交流活動を行っております。これまで、サッカー部とバスケットボール部の2部活が行ってききましたが、今年度参加部活動が増えて5部活が行うことになりました。ここにも顧問がおりますダンス部、バドミントン部、テニス部です。今後は文化部にも広げていきたいと考えています。

職員：今回文化祭のクラス代表を決めるときに、「中学校でこういうことをやったけど失敗に終わり辛い経験として残っているのでやりたくない」という生徒が挙がりました。「みんなでフォローするから、その思いを変えてみないか」と話し、クラス代表をやってもらいました。文化祭後にやってみてどうだったかときくと、「やってよかった、大変だったけどよい経験になった」と言ってくれました。またクラスでは、縁日をやりましたが、すべて手作りでをモットーにグループごとに制作してもらいました。グループで話し合い、夏休みにきて制作を進めるグループもありました。私が指示を出すということもなく生徒が主体的に考え、動いてくれました。当日は小さいお子さんにやり方を説明したりと、よい雰囲気でした。また、ダンス部は今の3年生から「しっかり活動すること、応援してもらえる部になること」を目標に校則を守ることを始め、部の改革に部員が主体的に取り組んできました。今まで、悪い印象だったダンス部も応援して下さる先生が増え、部員たちのモチベーションもあがりました。代替わりしましたが、大きく崩れることもなく、1月の大会に向けてがんばっています。

委員：ダンス部の先輩ががんばっている、その先輩が進学した、となれば、進路にもよい影響を与えることができるのではないのでしょうか。かつては保護者から「部活で忙しいので宿題をたくさん出さないでください、遅刻は大目に見てください」ということもあった。しかし、指定校推薦で進学できるからよい、ということではないはず。それから、気になっていたことですが、スタディーサポートで成績が下がるという現象はどうして起こるのでしょうか？

副校長：4月のスタディーサポートでは、高校受験のためにつけた学力の貯金があり、比較的よい成績を取ることができますが、貯金がなくなった2学期では下がるという現象はどこの学校でも起こることなのです。しかし、今年の1年生は1回目よりも2回目の方が成績があがっていきまして、業者の方からは先生方のご指導の賜物と言っていました。また、小中学校時代は、周りについていだけだった生徒が本校に入学してから自発的に活動できる場にな

<p>っていることも感じています。最後に、今後の夢といますか、旭にこうなってほしい、というものがございましたら、お願いします。</p>
<p>委員：夢というか質問ですが、中学校も部活を通して地域貢献をしやすいのですが、高校も部活動単位で貢献活動に取り組むほうに取り組むやすいですか？</p>
<p>副校長：高校でも部活動を通して地域貢献活動に取り組むことが多いように思います。旭カップもその一端です。しかし、部活動に入っていない生徒でもビリーブや委員会などを通して、いろんな場で活躍できる場があれば、3年間輝いていけると思います。</p>
<p>委員：新学習指導要領では、小学校5年生から英語が教科として扱われます。そうした教育を受けてきた生徒にも対応できるようにしていただきたい。私も4年前からきていますが、やはり目標を実現していくことが大事なのだと感じています。</p>
<p>委員：先ほどもお話ししましたが、先生には仕掛けをしてほしいとお願いしてきています。先生が楽になるように、先生は仕掛けづくり、生徒が主体的に活動する。何か一つでも「これができた」と思えるものを経験させてあげたい。文化祭ではおもてなしをテーマにして、その準備のために最高のおもてなしをするディズニーランドへ行って、研修を受ける。沖縄での平和学習、民泊で現地の方と直接触れあえる経験、とてもよいと思う。もっと生徒たちから、ここに行ってこういうことを学びたい、という声があがるとよい。</p>
<p>委員：東日本大震災以降、防災について言われてきているので、防災教育にも力をいれてほしい。高校生の自分には何ができるのかを考え行動できるようにしてほしい。防災に強い学校というのも目玉になるのではないか。</p>
<p>副校長：全校生徒による避難訓練はこの学校でも行うことですが、本校の特色としましては、部活動の時間帯にも避難訓練を行います。これはとても珍しいと感じております。これは、3・11の教訓でもあります。</p>
<p>それでは、お時間となりました。短い時間ではございましたが、教育活動活性部会を終わらせていただきます。本日はお忙しいところ、どうも有難うございました。</p>